

九州人工透析研究会会誌

第36巻

第41回九州人工透析研究会総会抄録集

2008年11月23日

(熊本県熊本市)

九州人工透析研究会

2008年11月

第41回 九州人工透析研究会総会

会 期：2008年11月23日(日)

会 場：熊本県立劇場 熊本市大江2丁目7-1

会 長：西 一彦

目 次

招請講演 座長：西 一彦 熊本大学医学部附属病院 血液浄化療法部

[CKD-MBD の新しい治療戦略]27

深川 雅史 神戸大学大学院医学研究科腎臓内科学准教授、
腎・血液浄化センター長

教育講演 座長：吉田 正貴 熊本大学大学院医学薬学研究部 泌尿器病態学分野

[QOL 改善を目指した腎性貧血治療
- 過去への反省と今後の展開 -]31

渡邊 有三 春日井市民病院 副院長

透析看護認定看護師(CN)・透析療法指導看護師(DLN)合同企画プログラム

司会進行：宮本 友子 医療法人 如水会 嶋田病院
城間久美絵 熊本赤十字病院

[透析患者のより良い生活を支援する看護とは？]33

コメンテーター：下山 節子 日本赤十字九州国際看護大学 准教授
菅原 園子 熊本県腎不全看護研究会 代表世話人

【事例提供】

C N：不動寺美紀 福岡赤十字病院

[終末期の透析患者の連携について]

中野 国枝 国立大学法人 長崎大学医学部・歯学部附属病院

[体液コントロール困難な終末期がん患者との関わりを通して]

DLN：飯盛美由紀 医療法人社団 柏清会 平尾クリニック

[未告知の大腸癌患者の外来維持透析を継続するために]

浦 陽子 医療法人社団 三村久木山会 宇土中央クリニック

[リンコントロール不良な独居高齢患者との関わりを通して]

ランチョンセミナー 1

協和発酵キリン株式会社

座長：齊藤 喬雄 福岡大学 医学部 腎臓・膠原病内科学 教授

[CKD-MBD レグパラがもたらす新しい治療展開]

平方 秀樹 福岡赤十字病院 副院長

ランチョンセミナー 2

中外製薬株式会社

座長：大石 義英 大分市医師会立アルメイダ病院 臨床工学室 室長

[透析患者の更なる QOL 向上を目指して、臨床工学技士にできること ～ワークアウトを使ったプロジェクトマネジメント～]

吉田 豊 済生会熊本病院 臨床工学部 副技師長

ランチョンセミナー 3

株式会社カネカメディックス

座長：藤見 惺 医療法人 医心会 福岡腎臓内科クリニック

[透析患者における末梢動脈疾患 ～早期発見と治療戦略～]

小林 修三 湘南鎌倉総合病院 副院長

ランチョンセミナー 4

扶桑薬品工業株式会社

座長：三股 浩光 大分大学医学部 腎泌尿器外科学 教授

[透析患者の薬物療法とサプリメント]

平田 純生 熊本大学薬学部附属
育薬フロンティアセンター・臨床薬理学分野 教授

※ランチョンセミナー抄録本文の掲載はございません。

一般講演抄録(口演)

- 0-01 当院で透析導入となった
抗 GBM 抗体陽性急速進行性糸球体腎炎 (RPGN) の3例**41
麻生飯塚病院 腎臓内科
○上野 智敏(うへの としはる)、那須 俊甫、中下さつき、中井健太郎、
前田 篤宏、木村 廣志、武田 一人
- 0-02 ANCA 関連腎炎を合併し、腎機能が急速に低下した管理不良な糖尿病患者の1例**41
1)福岡赤十字病院 腎臓内科、2) // 糖尿病内科
○福島 辰朗¹⁾(ふくしま たつろう)、長柄 仁¹⁾、水政 透¹⁾、
筒 信隆²⁾、青木 宏平¹⁾、土本 晃裕¹⁾、四枝 英樹¹⁾、満生 浩司¹⁾、
池田 潔¹⁾、平方 秀樹¹⁾
- 0-03 頻回に出血を繰り返し、透析療法に至った血管筋脂肪腫合併結節性硬化症の一例**42
福岡大学 腎臓膠原病内科学
○川村 栄一(かわむら えいいち)、中下 尚登、安部 泰弘、小河原 悟、
笹富 佳江、村田 敏晃、中島 衡、斉藤 喬雄
- 0-04 当院での二次性副甲状腺機能亢進症 (SHPT) の内科的治療抵抗例における
レグパラの効果**42
雪ノ聖母会 聖マリア病院 腎臓内科
○冬野 誠太(ふゆの せいた)、金谷 晶子、大田 頼子、黒田沙緒梨、
山口裕輝子、東 治道
- 0-05 当科での PTx の検討 - クリニカルパスおよび同一術者によるマネジメント -**43
済生会熊本病院 腎・泌尿器センター
○渡邊紳一郎(わたなべ しんいちろう)、副島 秀久、町田 二郎、副島 一晃、
高橋 渡、町田 健治、原 一正、井上 浩伸、福山 一隆、小田 晶
- 0-06 新しく開発した JBS-2 スリット型セミロングカテーテルの性能評価**43
1)産業医科大学病院 腎センター、2) // 循環器・腎臓内科、3)バクスター株式会社、
4)株式会社メディテック
○椛島 成利¹⁾(かばしま なるとし)、古野 由美²⁾、宮本 哲²⁾、柴田 達哉¹⁾、
芹野 良太²⁾、柴田 達哉³⁾、清水 順子⁴⁾、尾辻 豊²⁾、田村 雅仁¹⁾
- 0-07 PD カテーテル出口部感染の臨床的検討**44
1)長崎大学 医学部 泌尿器科、2)長崎大学 医学部・歯学部附属病院 血液浄化療法部、
3)長崎大学 医学部 第二内科、4)衆和会 桜町病院、5)宮崎内科医院
○望月 保志¹⁾(もちづき やすし)、錦戸 雅春^{1,2)}、野口 満¹⁾、酒井 英樹¹⁾、
金武 洋¹⁾、新井 英之³⁾、西野 友哉^{2,3)}、古巢 朗³⁾、原田 孝司⁴⁾、
宮崎 正信⁵⁾

- 0-08 腹膜透析患者に発症した posterior reversible encephalopathy syndrome の1例**……44
 1)長崎大学医学部・歯学部附属病院 第2内科、2) // 血液浄化療法部
 ○武富 梓¹⁾(たけとみ あずさ)、浦松 正¹⁾、山下 裕¹⁾、廣瀬 弥幸¹⁾、
 新井 英之¹⁾、小畑 陽子¹⁾、西野 友哉²⁾、古巢 朗¹⁾、河野 茂¹⁾
- 0-09 久留米大学における過去5年間のCAPDカテーテル留置術25例の検討**……45
 1)久留米大学 医学部 泌尿器科学教室、2) // 腎臓内科学教室
 ○上村慶一郎¹⁾(うへむら けいいちろう)、斎藤孝二郎¹⁾、末金 茂高¹⁾、
 宮原 茂¹⁾、松岡 啓¹⁾、楠本 拓生²⁾、奥田 誠也²⁾
- 0-10 腹膜透析を導入し経過良好であった腹水多量貯留と多発性のう胞腎を
 合併した高齢患者症例**……45
 済生会熊本病院 腎・泌尿器科
 ○町田 健治(まちだ けんじ)、小田 晶、井上 浩伸、福山 一隆、
 原 一正、高橋 渡、渡邊紳一郎、副島 一晃、町田 二郎
- 0-11 血漿交換を施行したTMAの3例**……46
 1)鹿児島大学病院 血液浄化療法部、2) // 集中治療部
 ○水間 浩平¹⁾(みずま こうへい)、西園 敏幸¹⁾、速見 浩士¹⁾、中川 昌之¹⁾、
 垣花 泰之²⁾
- 0-12 巣状糸球体硬化症(FGS)による難治性ネフローゼ症候群(NS)における
 LDL-Apheresis (LDL-A)の有用性**……46
 福岡赤十字病院 腎臓内科
 ○青木 宏平(あおき こうへい)、四枝 英樹、高橋 聖子、福島 辰朗、
 長柄 仁、土本 晃裕、水政 透、満生 浩司、池田 潔、平方 秀樹
- 0-13 ステロイド抵抗性となった高齢者微小変化型ネフローゼに対して、
 LDLアフェレーシスが有効であった一例**……47
 1)佐賀大学 医学部 腎臓内科、2) // 病院病態科学
 ○大塚 伸¹⁾(おおつか ただし)、池田 裕次¹⁾、山下祐佳里¹⁾、岸 知哉¹⁾、
 宮園 素明¹⁾、青木 茂久²⁾、佐内 透¹⁾
- 0-14 ダルベポエチンアルファ(ネスプ)切り替え後1年間の使用経験**……47
 かわい泌尿器科クリニック
 ○川井 修一(かわい しゅういち)、江頭かおり、岡 律、平野久美子、
 伏谷 智子、佐藤 清二、山田 恒義、浦濱 良子
- 0-15 血液透析患者におけるダルベポエチンアルファの効果
 ～治療効果および経済効果についての検討～**……48
 医療法人社団兼愛会 前田医院
 ○前田 兼徳(まえだ かねのり)、園田 和美、岩田 隆寿、前田 由紀

抄 録

(招請講演)

招請講演

11月23日(日) 13:30～14:30 第1会場



ふかがわ まさふみ

深川 雅史

神戸大学大学院医学研究科、内科学講座、腎臓内科学分野長、戦略的独立准教授、腎臓内科診療科長、腎・血液浄化センター

【経歴】

- 1958年 宮崎県に生まれる
- 1983年 東京大学医学部医学科卒業
東京大学医学部附属病院(分院内科、第3内科)研修医、
東京厚生年金病院内科研修医、公立昭和病院腎臓内科医長事務代理を経て
- 1990年 東京大学医学部附属病院第一内科(黒川清教授)助手
- 1992年 米国バンダービルト大学リサーチフェロー(細胞生物学、循環器学)
- 1995年 宮内庁侍従職、侍医
- 1997年 東京通信病院循環器科(腎臓内科)医師
- 2000年 神戸大学医学部附属病院助教授、代謝機能疾患治療部部长
- 2004年 神戸大学医学部附属病院腎臓内科診療科長を併任
- 2007年 神戸大学大学院医学研究科内科学講座腎臓内科学分野長、准教授
名称変更に伴い、腎・血液浄化センター長、現在に至る

【認定医等】

- 日本内科学会：認定内科医、総合内科専門医、指導医
- 日本腎臓学会：専門医、指導医
- 日本透析医学会：専門医、指導医
- 米国腎臓学会：Fellow of the American Society of Nephrology (FASN)

【学会活動】

- 日本腎臓学会：幹事、評議員、査読委員会委員、国際交流委員会委員、
専門医制度委員会・卒前卒後教育委員会委員
- 日本透析医学会：評議員、学術委員会委員、国際学術交流委員会委員、
研究者の利益相反検討小委員会委員、ガイドライン作成小委員会委員、
エビデンスレベルの評価ワーキンググループ座長
- 米国腎臓学会：International Editor：Clinical J Am Soc Nephrol
K-DIGO : GBMI (Global Bone and Mineral Initiative)
ガイドライン作業部会委員

【褒賞】

- 日本内科学会奨励賞(1997年)、日本骨代謝学会学術賞(2005年)

【最近の教育的著書(分担執筆、編集含む)】

- Current Medical Diagnosis & Treatment 2008 (Lange)
- レジデントのための腎疾患診療マニュアル(医学書院)
- 透析患者の病態へのアプローチ(金芳堂)
- 図解：水電解質テキスト(文光堂)
- より理解を深める！体液電解質異常と輸液(中外医学社、監修)
- 腎機能を考えた安全な処方(医薬ジャーナル社)
- EBM 透析療法2008-2009(中外医学社)
- 透析患者の検査値の読み方(日本メディカルセンター)

CKD-MBD の新しい治療戦略

深川 雅史

神戸大学大学院医学研究科腎臓内科学准教授、腎・血液浄化センター長

従来の腎性骨異常症(ROD)から慢性腎臓病にともなう骨ミネラル代謝異常(CKD-MBD)という用語の変化は、この病態が骨だけの病気ではなく、血管石灰化等を含めた全身の病気であることを再認識させた。それにもなって、治療も、データを良くするだけでなく、その結果として心血管イベント、骨折率、生命予後を改善することを最終目的とするようになった。

JSDTのガイドラインは、このような方針のもとに、可能な限り日本人のデータに基づいて、なるべくシンプルに治療戦略を立てられるように作成されたものであり、周知されてから一定の効果を挙げている。

しかしながら、リン・カルシウムの管理がうまくできない患者では、アルゴリズム上PTHを抑制するような治療がそれ以上できないことになってしまうことが、しばしば問題となっている。この点で、最近使用可能になった塩酸シナカルセットや、近々発売される予定の炭酸ランタンが、ともにカルシウムを上昇させない効果を持つことによって、治療困難な透析患者の治療戦略に、重要な役割を果たすことが期待される。

抄 録

(教育講演)



わたなべ ゆうぞう
渡邊 有三

【略歴】

昭和44年 愛知県立旭丘高等学校卒業
昭和50年 名古屋大学医学部卒業
昭和50年～52年 名古屋第一赤十字病院にて臨床研修
昭和52年～53年 名古屋第一赤十字病院内科医員
昭和53年 名古屋大学医学部付属病院第三内科医員
昭和55年 名古屋大学医学部内科学第三講座助手
昭和59年～63年 名古屋大学医学部付属病院第三内科医局長兼務
昭和64年～平成2年 アメリカ合衆国イリノイ州シカゴ市ノースウェスタン大学
病理学教室へ文部省長期在外研究員として派遣
(Y. Kanwar 教授の下で proteoglycan に関する研究)
平成8年 名古屋大学医学部付属病院第三内科講師
平成9年 名古屋大学医学部内科学第三講座助教授
平成9年 春日井市民病院内科部長
平成10年 春日井市民病院医務局長
平成12年 春日井市民病院副院長
現在に至る

【賞罰】

平成15年 厚生労働大臣表彰：「臓器不全医療に対する功労」

【所属学会】

日本内科学会(評議員、指導医) 日本腎臓学会(法人評議員、指導医)
日本透析医学会(評議員、指導医) 日本糖尿病学会(専門医)
日本骨代謝学会(評議員) 国際腎臓学会 アメリカ腎臓学会

【公職】

愛知県透析医会会長
愛知県・名古屋市更正医療審議会委員
愛知県国保連合会運営協議会委員
愛知県医師会難病相談専門委員

【研究分野】

臨床内科学(腎臓、糖尿病、透析医療)

QOL 改善を目指した腎性貧血治療 －過去への反省と今後の展開－

渡邊 有三

春日井市民病院 副院長

ヒト遺伝子組換えエリスロポエチン (rHuEPO) が発売されるまでの貧血治療は、輸血や蛋白同化ステロイドに頼らざるを得ず、血液媒介感染症の蔓延など、血液透析患者にとっての大きな障害であった。当時の貧血改善目標は Ht で 20% (Hb で 7g 弱) であった。

1990 年に rHuEPO が発売されてからの臨床効果は目覚ましく、貧血改善目標値は Ht で 30% (Hb で 10g) へと変更された。この間の患者の QOL 改善については今更説明する必要もないほどである。しかし、欧米では貧血が改善すればするほど入院率などが低下するという観察研究の結果もあり、貧血改善目標値は徐々に増加していく傾向があった。また、K-DOQI ガイドラインでは Hb で 11～12g/dl 程度が望ましいと報告された。このような状況を下に、わが国でも貧血治療ガイドラインが 2004 年に策定されたが、その指針での Hb 推奨値は 10～11g/dl とされた。この違いとしては、採血時間、体位などが欧米とわが国では異なるということが理由として述べられてきた。

しかしながら、わが国では 10g 以下の患者が 39% 近くもいるという現実があり、さらに平成 18 年には rHuEPO が透析技術料に包括化されるという大きな保険診療上の変更がなされた。このような状況を反映して臨床現場で起こったことは rHuEPO 投与量の削減と鉄剤の過剰ともいえる投与であった。丁度その頃、わが国では新しいエリスロポエチン製剤の臨床治験が開始されていて、その薬剤を使用すると目標 Hb を 12～13g/dl に設定しても、効果が確実に得られ、QOL が改善することも明らかにされた。治験に携わる医師にとってとても望ましい結果が得られたのである。

一方、その頃アメリカでは CHOIR 研究や CREATE 研究などという大規模臨床試験が行われ、目標 Hb 値を 12 以上にすると死亡や入院率などの重大な副作用が多発するという結果が報告された。そして、過剰な貧血改善は危険であるとの警告文書が出され、rHuEPO 投与量について再検討すべきとの風潮が起こった。このような問題が提起される背景には、米国での貧血治療方針がわが国と大きく異なるという面が大きく影響していると推測される。今回の公園では彼我の違いについて独断的な評価を試みるとともに、このような大規模研究をもう少し掘り下げて検討する試みなども紹介します。そして、その検討の中で明らかになった Hemoglobin cycling という問題や Neocytolysis という減少についても概説し、血液透析患者にとって、今後どのような貧血治療の方式が望ましいのかということについて私見を述べたいと思っています。

抄 録

(CN・DLN 合同企画)

11月23日回 9:30～10:30 第2会場

透析患者のより良い生活を支援する看護とは？

司会進行：宮本 友子 医療法人 如水会 嶋田病院
城間久美絵 熊本赤十字病院

コメンテーター：下山 節子 日本赤十字九州国際看護大学 准教授
菅原 園子 熊本県腎不全看護研究会 代表世話人

【事例提供】

C N：不動寺美紀 福岡赤十字病院

〔 終末期の透析患者の連携について 〕

中野 国枝 国立大学法人 長崎大学医学部・歯学部付属病院

〔 体液コントロール困難な終末期がん患者との関わりを通して 〕

DLN：飯盛美由紀 医療法人社団 柏清会 平尾クリニック

〔 未告知の大腸癌患者の外來維持透析を継続するために 〕

浦 陽子 医療法人社団 三村久木山会 宇土中央クリニック

〔 リンコントロール不良な独居高齢患者との関わりを通して 〕

透析患者数は、2007年末では、27万5千人と報告され、その数は年々増加傾向にある。透析患者を取り巻く社会状況としては、患者ニーズが増加の一途をたどっているにもかかわらず活用できる資源は削減されている。このような状況で、透析患者は多くの身体的精神的苦痛をかかえながら、苦悩の日々を過ごしており、患者心理を理解し透析看護に熟達した専門性を持った看護師を求めている。看護職者は患者の安全で安寧な日々を支援する事に透析看護の意義を見出し、技能の向上、知識の習得につとめる必要がある。

熟練した技術と知識をそなえた看護職者を育成する目的で、以下の2つの資格制度が作られた。

- 2004年 5学会（日本腎不全看護学会、日本透析医学会、日本腎臓学会、日本移植学会、日本泌尿器科学会）合同認定「透析療法指導看護師」
- 2005年 日本看護協会認定「透析看護認定看護師」

この資格は、透析患者の生命の安全と安寧を守り、良質な看護サービスを提供し他の看護職者の役割モデルとなる人材育成を担っている。

今回透析看護分野においてキャリアを積み水準の高い看護を実践されている方々から事例報告をしていただき 『透析患者のより良い生活を支援する看護とは？』をテーマとして一緒にディスカッションを行い、めざす透析看護のあり方を再認識できればと考える。

一般演題抄録

(口演)

O-01

当院で透析導入となった 抗 GBM 抗体陽性急速進行性糸球体腎炎 (RPGN)の3例

麻生飯塚病院 腎臓内科

○上野 智敏(うへの としはる)、
那須 俊甫、中下さつき、中井健太郎、
前田 篤宏、木村 廣志、武田 一人

【はじめに】抗 GBM 抗体陽性 RPGN は糸球体基底膜に対する自己抗体を産生し早期に末期腎不全に至る予後不良な疾患であり、有病率は100万人に1人とされている [UpToDate, 2008]。当院で H18年4月～H20年8月の期間に抗 GBM 抗体陽性 RPGN で透析導入となった3例を経験した。

【症例】3例の平均年齢は71.0歳、男2女1人、診断時平均血清 Cr 5.8mg/dl、抗 GBM 抗体平均値 95EU [cut-off 値 : > 50EU] であった。

【経過】2例にステロイドパルスと免疫抑制剤投与を行い、うち1例に血漿交換を施行した。いずれの症例でも抗 GBM 抗体の著明な低下を認め、肺出血等の合併症は1例も認めなかったが、診断から平均4.6ヶ月で全例血液透析導入となった。

【考察】本邦では全 RPGN 症例のうち10%前後に抗 GBM 抗体陽性を認め、59.2%が肺合併症で死亡し、腎生存率も6ヶ月で25.9%と極めて不良 [日腎会誌; 2002] であり、本症例も全例で早期に透析導入となった。しかし、高齢発症の抗 GBM 抗体陽性 RPGN は肺出血等の腎外合併症の頻度が相対的に低い [Ann Intern Med; 2001] と報告されており、本症例はこれに沿う結果であり、貴重な症例と考え、文献的考察も含め報告する。

O-02

ANCA 関連腎炎を併し、 腎機能が急速に低下した 管理不良な糖尿病患者の1例

1) 福岡赤十字病院 腎臓内科

2) // 糖尿病内科

○福島 辰朗¹⁾(ふくしま たつろう)、
長柄 仁¹⁾、水政 透¹⁾、筒 信隆²⁾、
青木 宏平¹⁾、土本 晃裕¹⁾、四枝 英樹¹⁾、
満生 浩司¹⁾、池田 潔¹⁾、平方 秀樹¹⁾

【症例】72歳男性。68歳時、糖尿病を指摘されたが放置していた。2008年3月、血糖314mg/dl、HbA1c13.3%、尿蛋白(2+)、尿蛋白/クレアチニン比2.0、尿潜血(3+)、尿中赤血球20-30/HPF、Cr1.5mg/dlを指摘され、糖尿病内科に入院した。糖尿病性腎症による慢性腎不全と診断され、アンジオテンシンII抑制薬、インスリン療法を開始した。この時、CRP1.5mg/dl程度の炎症を認めたが、原因は不明であったため経過観察となった。同年6月、大動脈弁狭窄症の手術目的で心臓外科に入院した。BUN102mg/dl、Cr7.08mg/dlと急激な腎機能低下を認め、当科に紹介となった。腎生検で半月体形成性糸球体腎炎と診断し、MPO-ANCA221EUであることから ANCA 関連腎炎と診断した。肺病変を認めず、ステロイドパルス療法後に経口ステロイド治療を開始した。炎症反応とMPO-ANCAは陰性化した。Crは7mg/dl前後で改善せず、血液透析を導入した。

【考察】高齢者の糖尿病性腎症で腎機能障害が急激に増悪した場合には、ANCA 関連腎炎を鑑別すべきである。

O-03

頻回に出血を繰り返し、透析療法に至った血管筋脂肪腫合併結節性硬化症の一例

福岡大学 腎臓膠原病内科学

○川村 栄一(かわむら えいいち)、
中下 尚登、安部 泰弘、小河原 悟、
笹富 佳江、村田 敏晃、中島 衡、
斉藤 喬雄

症例は37歳男性。1971年(3歳時)に結節性硬化症、その後血管筋脂肪腫、てんかんの診断にて外来加療されていた。1996年(25歳時)突然の腹部の膨隆、疼痛が出現し、左腎の出血があり、選択的腎動脈塞栓術(TAE)を施行された。2003年(32歳時)、左腎下極の出血に対し前回と同部位にTAEを施行。2004年にも左腎の出血が見られたが、血清Cr 4.1mg/dlと腎不全の進行があり、TAEは行わず保存的に加療された。その後、次第に腎機能は悪化し、2006年7月腹膜透析導入となった。同年8月右腎下極に出血がみられ3回目のTAEを施行された。2007年10月セラチアによる難治性腹膜炎を来し血液透析に移行した。2008年6月、8月にも左腎の出血が見られたが、いずれも出血は軽度で保存的にTAEは行わず経過観察した。結節性硬化症は腎障害を高率に合併するが、透析療法にまで至る症例は少ないとされている。本症例における腎機能悪化の原因として腎血管筋脂肪腫の増大および頻回の出血が考えられる。数回のTAE施行後も再出血を繰り返した症例は少なく、近年の報告では予防的TAEの有効性も散見される。今後の治療法について文献的考察を行い、検討したので報告する。

O-04

当院での二次性副甲状腺機能亢進症(SHPT)の内科的治療抵抗例におけるレグパラの効果

雪ノ聖母会 聖マリア病院 腎臓内科

○冬野 誠太(ふゆの せいた)、
金谷 晶子、大田 頼子、黒田沙緒梨、
山口裕輝子、東 治道

【目的】 内科的治療に抵抗するSHPTに対してCa感受容体作動薬(レグパラ)の効果が期待されている。当院では2008年6月から投与を開始したのでその効果を下記の項目で検討する。

【対象】 当院血液透析患者(212名)のうちintact PTH 800pg/ml以上で活性型ビタミンD製剤を充分量投与しているにもかかわらずコントロール不良の症例、もしくは充分量投与できない症例、手術を拒否している症例の計7名。

【方法】 レグパラ25mgから投与を開始し、補正Caが8.5mg/dl以上で適宜50mgまで増量し、1:レグパラ投与開始前、1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月後の補正Ca、P、intact PTH、2:投与開始前、3ヶ月後の骨型アルカリフォスファターゼ、酒石酸フォスファターゼ、エコーによる副甲状腺最大腺径、骨密度の推移を検討する。

【結果】 2ヵ月後までの経過で補正Caは平均 $9.7 \pm 0.9 \rightarrow 9.0 \pm 0.4$ mg/dl、Pは平均 $5.8 \pm 0.6 \rightarrow 5.2 \pm 1.0$ mg/dl、平均intact PTHは 1393 ± 642 pg/ml、抑制率は平均 $17 \pm 11\%$ で(いずれも $P < 0.01$)と有意に低下した。これに3ヵ月後の結果を加え報告する。

一般演題抄録

(ポスター)

P-01

心臓弁置換術後、頻脈性不整脈時に 低血圧を回避できるようになった1例

医療法人社団 健昌会 新里内科
新里ネフロクリニック

○松下 哲朗(まつした てつろう)、
松下 美和、芦澤麻美子、小川 和彦、
金本 康秀、新里 健

頻脈性不整脈は血液透析による合併症としてみられ、血行動態が不安定となり透析続行が困難となることもある。しかしながら、透析患者は使用できる抗不整脈薬に限られるため治療は難しい。心臓弁膜症に合併した頻脈性不整脈のため頻繁に除水不足となっていたが、術後は頻脈性不整脈時にも血圧低下を来さなくなったため血行動態が安定し、手術が有効であった症例を経験した。症例は64歳女性。慢性腎不全にて血液透析を施行中で、以前より心臓弁膜症の指摘はあったが手術適応はないとの判断であった。平成18年4月頃より頻脈性不整脈にて血圧が低下し、除水が不十分となることがあった。心臓弁膜症による心負荷からの不整脈の可能性もあり再度精査を行ったところ、連合弁膜症(大動脈弁狭窄症、僧帽弁狭窄症兼閉鎖不全症)ならびに冠動脈狭窄あり、二弁置換術ならびに冠動脈バイパス術を行った。術後、不整脈自体の改善はなかったが、頻脈性不整脈出現時にも血圧が低下することは全くなり血液透析が容易となった。透析患者における心臓手術のタイミングは非常に難しいが、患者のQOLも改善し、心臓弁置換術が非常に有効であった。

P-02

カルベジロールを主とした降圧治療により 1年で著明な心機能改善を認めた維持透析 患者

宗像医師会病院 腎センター

○中村 紀子(なかむら のりこ)、
渡邊 泉、黒木 裕介、石田伊都子、
保利 敬

慢性心不全に対する β 遮断薬の予後改善効果は確立しており、透析患者においてもその有効性は報告されている。特に高血圧性心臓病ではその重症度が強くとも β 遮断薬を主とした降圧治療で改善が期待できるといわれている。今回、高血圧性心臓病末期で慢性心不全を呈した維持透析患者に対しCarvedilolを主とした降圧治療を行い、1年で著明な心機能改善を得た一例を経験したため報告する。症例は64歳男性。約30年の高血圧歴がある。慢性糸球体腎炎を原疾患として59歳時に血液透析を導入。導入時の心エコーではEF56%であったが、60歳時に発作性心房粗動(PAF)で入院した際、EF21%と低下を指摘された。平成17年4月(61歳時)当院に転院。心エコーで心拡大(LVDd 68mm)、左室機能不全(EF19%、びまん性壁運動低下)を認め、拡張型心筋症様所見であった。平成18年9月心機能低下の精査目的で他院に入院。心臓カテーテル検査で虚血性心疾患の関与は否定され、本病態は高血圧性心臓病末期と診断された。治療としてより厳格な降圧治療、慢性心不全に対する β 遮断薬の増量を勧められ、以後CarvedilolとValsartanを増量し血圧管理を行った。結果、心胸比は低下し(60%→48%)、1年後の心エコーでEF66%と著明な心機能改善を認めた。

P-03

糖尿病性腎症による透析患者に生じた陰茎壊死の一例

- 1) 県立宮崎病院 内科
- 2) // 泌尿器科
- 3) // 臨床検査科 病理

○兄玉 圭子¹⁾(こだま けいこ)、
上園 繁弘¹⁾、池田 直子¹⁾、増田 克明²⁾、
長野 正史²⁾、木宮 公一²⁾、島尾 義也³⁾

【症例】69歳男性。40歳時に糖尿病と診断され、7年前より糖尿病性腎症のため血液透析導入。6年前には心筋梗塞のため冠動脈ステント挿入術を受けている。平成20年6月より陰茎亀頭部の疼痛を自覚、同部位のびらんを認め抗生剤や外用薬にて経過をみていたが改善せず、亀頭部の壊死拡大と周囲の浮腫増悪の傾向にあった。透析中に特に強い疼痛の増悪を認め、モルヒネの経口投与や陰茎根部ブロック注射をうけながら透析を継続していた。8月になり発熱、WBC：1,0000/ μ L、CRP：20mg/dLと感染の増悪を認め、9月に陰茎切断術を施行した。

【考察】糖尿病透析患者では虚血に伴う皮膚壊死を認めるが、多くは下肢領域であり血流の比較的豊富な陰茎の壊死はまれとされている。今回、陰茎壊死合併透析患者を経験したため若干の文献的考察を含め報告する。

P-04

陰茎壊死をきたした糖尿病による慢性透析患者の一例

- 1) 中村病院 泌尿器科
- 2) 玄々堂泌尿器科

○酒本 貞昭¹⁾(さかもと さだあき)、
大野 仁¹⁾、花岡 雅秀²⁾、和田 端隆²⁾

近年糖尿病による透析導入は増加の一途をたどっている。糖尿病の主たる原因は血管変化であり、この血管変化を防止ないし治療することが患者の予後を決する因子と言っても過言ではない。しかしながら血管病変が進行するときわめて悲劇的な合併症を惹起することも稀ではない。演者らは長期透析患者に合併して比較的稀な陰茎壊死を経験したので報告する。患者は58歳男性。平成16年9月より維持透析に導入されている。維持透析への主たる原因は糖尿病である。食事療法など糖尿病の維持管理状態もどちらかと言えば不良である。最近陰茎先端の激痛が始まり、壊死を来たし始めたので、前医より紹介入院となった。陰茎は完全包茎状態であり、感染を伴っていた。外尿道口から見える亀頭部は変色し壊死状態であった。同部からと思われる激痛が強度のため、陰茎切断を行った。糖尿病による合併症は様々経験している。四肢末端の血流障害による糖尿病壊死は稀ではないが陰茎亀頭部のみに限局する血管閉塞合併症は稀と思われ報告する。

九州人工透析研究会規約

九州人工透析研究会規約

(名称及び事務所)

第1条 本会は九州人工透析研究会と称す。

2. 本会の事務所を

北九州市八幡東区春の町5丁目9番27号済生会八幡総合病院腎センター内
TEL 093-662-5211 内線(1560)に置く。

(目的)

第2条 本会は九州地区における人工透析の向上と会員相互の連絡をはかることを目的とする。

(会員、組織)

第3条 本会の構成は原則的には関係教室、研究機関、診療機関単位とし、その加入については本会事務所に申し入れ、会長の承認を得るものとする。

第4条 本会は下記の役員を置く。

会 長 1名

総会会長 1名

幹 事 若干名

監 査 2名

なお、幹事のうち1名は会計幹事を兼ねる。

役員の任期を2年とする。なお留任を妨げない。

2. 会長は幹事会の推薦により、総会で定める。

会長は本会を代表し、会務を統轄する。

3. 総会会長は幹事会推薦により定め、会長を補佐し研究会ならびに幹事会を主催する。

4. 幹事は関係教室、研究機関の推薦にもとづき会長が委嘱する。幹事は幹事会を構成し本会の運営を議し、且つ会務を執行する。

5. 会計幹事は会長が幹事の中より委嘱し、本会の会計の任に当たる。

6. 監査は幹事会の推薦により総会で定める。

監査は本会の経理を監査する。

第5条 本会には幹事会の議を経て、名誉会長及び名誉会員等を置くことができる。

(集会)

第6条 本会は年1回研究総会を開催し、その他の事業を行う。

2. 総会会長ならびに開催地については、前回の総会の時幹事会の議により定める。

3. 総会の形式は総会会長の意によって幹事会にはかり決定する。

4. 本会は研究総会の記録を「九州人工透析研究会会誌」として出版し関係機関に配布する。

(経費)

第7条 本会の経費は年会費、集会参加費、寄附金、その他をもってこれにあてる。

2. 本会の構成各施設は会費として年額1万円を納める。
3. 会計年度は4月1日より翌年の3月31日までとする。
4. 会計幹事は総会の席上で前年度の会計決算を報告しなければならない。

(補則)

第8条 本規約は幹事会の議を経て、総会の承認を得て変更することが出来る。

(附則)

この規約は昭和49年1月1日より実施する。

第7条2. は平成4年1月1日より実施する。

(申し合わせ事項)

1. 幹事は当分の間、次の通りとする。

原則的に各県2名とする。但し福岡県は6名とする。

2. 研究総会の開催地及び時期は原則的に九州医師会医学会と同じくし、総会会長は開催県の関係機関より推薦する。

九州人工透析研究会総会開催地

九州人工透析研究会総会開催地

第1回	長崎市	近藤 厚	長崎大学泌尿器科
第2回	熊本市	池上 奎一	熊本大学泌尿器科
第3回	福岡市	百瀬 俊郎	九州大学泌尿器科
第4回	鹿児島市	岡元 健一郎	鹿児島大学泌尿器科
第5回	佐賀市	陣内 謙一	佐賀県立病院好生館
第6回	宮崎市	河野 恭一郎	河野病院
第7回	大分市	西田 勉	大分県立病院泌尿器科
第8回	長崎市	近藤 厚	長崎大学泌尿器科
第9回	熊本市	池上 奎一	熊本大学泌尿器科
第10回	福岡市	尾前 照雄	九州大学第二内科
第11回	鹿児島市	岡元 健一郎	鹿児島大学泌尿器科
第12回	佐賀市	鶴丸 広長	佐賀県立病院好生館
第13回	宮崎市	石澤 靖之	宮崎医科大学泌尿器科
第14回	北九州市	重松 俊	久留米大学泌尿器科
第15回	別府市	緒方 二郎	大分医科大学泌尿器科
第16回	長崎市	原 耕平	長崎大学第二内科
第17回	熊本市	池上 奎一	熊本大学泌尿器科
第18回	福岡市	荒川 規矩男	福岡大学第二内科
第19回	鹿児島市	橋本 修治	鹿児島大学第二内科
第20回	佐賀市	真崎 善二郎	佐賀医科大学泌尿器科
第21回	宮崎市	田仲 謙二郎	宮崎医科大学第一内科
第22回	宜野湾市	大澤 炯	琉球大学泌尿器科
第23回	別府市	緒方 二郎	大分医科大学泌尿器科
第24回	長崎市	斉藤 泰	長崎大学泌尿器科
第25回	熊本市	上田 昭一	熊本大学泌尿器科
第26回	北九州市	高杉 昌幸	産業医科大学第二内科
第27回	鹿児島市	大井 好忠	鹿児島大学泌尿器科
第28回	佐賀市	真崎 善二郎	佐賀医科大学泌尿器科
第29回	宮崎市	長田 幸夫	宮崎医科大学泌尿器科
第30回	宜野湾市	小川 由英	琉球大学泌尿器科
第31回	別府市	野村 芳雄	大分医科大学泌尿器科
第32回	長崎市	河野 茂	長崎大学第二内科
第33回	熊本市	上田 昭一	熊本大学泌尿器科
第34回	久留米市	野田 進士	久留米大学泌尿器科
第35回	鹿児島市	有馬 暉勝	鹿児島大学第二内科
第36回	佐賀市	松本 順二	佐賀県立病院好生館人工透析室
第37回	宮崎市	藤元 昭一	宮崎大学第一内科
第38回	宜野湾市	小川 由英	琉球大学泌尿器科
第39回	大分市	三股 浩光	大分大学泌尿器科
第40回	長崎市	金武 洋	長崎大学泌尿器科
第41回	熊本市	西 一彦	熊本大学泌尿器科
次回総会会長			
第42回	福岡市	平方 秀樹	福岡赤十字病院

九州人工透析研究会会員名簿

九州人工透析研究会会員名簿

施設名	所在地	〒	連絡者	電話番号
福 岡 県				
九州大学医学部泌尿器科	福岡県福岡市東区馬出3-1-1	812-8582	内藤 誠二	092-641-1151
九州大学医学部第2内科	福岡県福岡市東区馬出3-1-1	812-8582	鶴屋 和彦	092-641-1151
九州大学医学部第3内科	福岡県福岡市東区馬出3-1-1	812-8582	酒井 浩得	092-641-1151
九州大学医学部小児科	福岡県福岡市東区馬出3-1-1	812-8582	堤 康	092-641-1151
九州大学医学部臨床腫瘍外科	福岡県福岡市東区馬出3-1-1	812-8582	杉谷 篤	092-642-5543
貝塚病院	福岡県福岡市東区箱崎7-7-27	812-0053	矢野 和浩	092-632-3333
はごぎき公園内科病院	福岡県福岡市東区原田4-34-26	812-0063	友岡 卓	092-624-3531
木山内科	福岡県福岡市東区香椎駅前2-9-2 香椎ユーマビル18・9F	813-0013	木山 茂美	092-674-2190
福満会ふくみつ病院	福岡県福岡市東区香椎浜4-10-1	813-0016	福満 東馬	092-681-3331
福岡医科歯科技術専門学校臨床工学技士科	福岡県福岡市東区水谷1-21-1	813-0041	田中 和樹	092-682-1525
福岡輝栄会病院	福岡県福岡市東区千早5-11-5	813-0044	中村 吉孝	092-681-3115
福岡和白病院	福岡県福岡市東区和白丘2-11-17	811-0213	吉永 英俊	092-608-0001
こもたクリニック	福岡県福岡市博多区博多駅東2-13-29	812-0013	菰田 哲夫	092-472-5851
博腎会博腎会病院	福岡県福岡市博多区住吉2-21-21	812-0018	許斐儀七郎	092-272-0565
原三信病院	福岡県福岡市博多区大博町1-8	812-0033	平 祐二	092-291-3434
原三信病院附属呉服町腎クリニック	福岡県福岡市博多区中呉服町1-25	812-0035	片渕 律子	092-262-2828
木村こうけん医院	福岡県福岡市博多区吉塚3-28-29伸和ビル	812-0041	木村耕太郎	092-621-0043
有吉クリニック	福岡県福岡市博多区吉塚5-7-9	812-0041	有吉 孝	092-632-0101
福岡市民病院	福岡県福岡市博多区吉塚本町13-1	812-0046	透析担当医	092-632-1111
福岡医療団千鳥橋病院	福岡県福岡市博多区千代5-18-1	812-8633	寺井明日香	092-641-2761
くま腎クリニック	福岡県福岡市博多区銀天町2-2-3	816-0079	隈 博政	092-575-3112
医心会福岡腎臓内科クリニック	福岡県福岡市中央区渡辺通4-6-20	810-0004	藤見 惺	092-761-4936
三光会三光クリニック	福岡県福岡市中央区六本松4-9-3	810-0044	吉田 昭男	092-713-0468
福岡市立こども病院	福岡県福岡市中央区唐人町2-5-1	810-0063	郭 義胤	092-713-3111
後藤クリニック	福岡県福岡市中央区舞鶴3-6-17	810-0073	後藤宏一郎	092-714-3250
浜の町病院透析室	福岡県福岡市中央区舞鶴3-5-27	810-8539	吉田 鉄彦	092-721-0831
国立病院九州医療センター	福岡県福岡市中央区地行浜1-8-1	810-8563	中山 勝	092-852-0700
柏清会平尾クリニック	福岡県福岡市中央区那の川2-5-9	810-0015	王寺 幸則	092-521-9120
済生会福岡総合病院	福岡県福岡市中央区天神1-3-46	810-0001	野田 律矢	092-771-8151
喜悦会那珂川病院	福岡県福岡市南区向新町2-17-17	811-1345	下川 敏弘	092-565-3531
おおし内科循環器科医院	福岡県福岡市南区大橋2-27-23	815-0033	中島 光一	092-512-5225
三井島内科クリニック	福岡県福岡市南区大橋4-25-30	815-0033	三井島千秋	092-562-8871
福岡赤十字病院	福岡県福岡市南区大楠3-1-1	815-8555	平方 秀樹	092-521-1211
大里腎クリニック	福岡県福岡市南区横手2-18-15	811-1311	大里紳一郎	092-502-7714
西新クリニック	福岡県福岡市早良区西新5-15-20	814-0002	松島 哲哉	092-822-8998
信愛会重松クリニック	福岡県福岡市早良区百道1-1-4	814-0006	重松 勝	092-843-3800
ちはら内科医院	福岡県福岡市早良区原6-23-30	814-0022	千原 純一	092-833-5323
福西会川浪病院	福岡県福岡市早良区野芥1-2-36	814-0171	衛藤 聡	092-861-2780
よしとみ内科クリニック	福岡県福岡市西区姪浜駅南3-17-17	819-0006	吉富 宏治	092-892-1533
信愛会信愛クリニック	福岡県福岡市西区今宿町50-4	819-0164	庄垣内良人	092-807-5558
白十字会白十字病院	福岡県福岡市西区石丸3-2-1	819-8511	石田伊都子	092-891-2511
西福岡病院	福岡県福岡市西区生の松原3-18-8	819-8555	安藤 文英	092-881-1331

施設名	所在地	〒	連絡者	電話番号
福岡大学病院	福岡県福岡市城南区七隈 7-45-1	814-0133	斉藤 喬雄	092-801-1011
福岡大学医学部第二病理学教室	福岡県福岡市城南区七隈 7-45-1	814-0133	清 保博	092-801-1011
むらやま泌尿器科クリニック	福岡県福岡市城南区七隈 7-2-1	814-0133	道永 功	092-874-0020
順和会長尾病院	福岡県福岡市城南区樋井川 3-47-1	814-0153	服部 文忠	092-541-2035
船場クリニック	福岡県北九州市小倉北区船場町 5-5 船場ビル	802-0007	藤井 光正	093-522-1577
池友会小文字病院	福岡県北九州市小倉北区大畠 1-7-25	802-0026	平山 和由	093-531-2233
成映会遠藤外科医院	福岡県北九州市小倉北区高坊 2-8-33	802-0053	斐 柄球	093-921-5010
かわい泌尿器科クリニック	福岡県北九州市小倉北区馬借 3-3-34	802-0077	川井 修一	093-551-9900
小倉記念病院泌尿器科	福岡県北九州市小倉北区貴船町 1-1	802-8555	城嶋 和孝	093-921-2231
小倉第一病院	福岡県北九州市小倉北区真鶴 2-5-12	803-0844	中村 定敏	093-582-7730
健和会大手町病院	福岡県北九州市小倉北区大手町 15-1	803-8543	三宅 昌	093-592-5511
阿部クリニック	福岡県北九州市小倉南区田原新町 2-3-8	800-0226	阿部 哲哉	093-475-4939
北九州総合病院	福岡県北九州市小倉南区湯川 5-10-10	800-0257	新宅 究典	093-921-0560
宮崎医院	福岡県北九州市小倉南区北方 2-19-1	802-0841	宮崎 文男	093-921-2058
敬天会東和病院	福岡県北九州市小倉南区守恒本町 1-3-1	803-0971	東 泰宏	093-962-1008
聖和クリニック	福岡県北九州市小倉南区守恒本町 1-12-6	803-0971	益川理美子	093-963-5789
城野クリニック	福岡県北九州市小倉南区城野 4-5-58	802-0802	中俣 友睦	093-922-6262
松島クリニック	福岡県北九州市八幡東区茶屋町 2-8	805-0014	松島 慶幸	093-652-0001
済生会八幡総合病院	福岡県北九州市八幡東区春の町 5-9-27	805-0050	合屋 忠信	093-662-5211
新日鐵八幡記念病院	福岡県北九州市八幡東区春の町 1-1-1	805-8508	鶴田 宏	093-653-1006
八幡クリニック	福岡県北九州市八幡東区尾倉 3-6-1	805-0059	松尾 賢三	093-671-1111
はまゆう会王子病院	福岡県北九州市八幡西区東王子町 4-17	806-0037	田中 孝夫	093-641-1239
産業医科大学病院腎センター	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1	807-0804	田村 雅仁	093-603-1611
産業医科大学病院第2内科	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1	807-0804	穴井 博史	093-603-1611
佐々木病院	福岡県北九州市八幡西区香月西 2-9-3	807-1103	濱村 義史	093-617-0770
今村クリニック	福岡県北九州市八幡西区茶屋の原 2-3-4	807-1134	今村 敦郎	093-618-3377
医生ヶ丘クリニック	福岡県北九州市八幡西区力丸 11-22	807-0802	田中 弘	093-601-5555
折尾クリニック	福岡県北九州市八幡西区折尾 4-9-9	807-0825	小嶺 憲国	093-601-4321
北九州ネフロクリニック	福岡県北九州市八幡西区則松 2-8-21	807-0831	上村 哲司	093-692-6665
九州厚生年金病院内科	福岡県北九州市八幡西区岸の浦 1-8-1	806-8501	西原 学宣	093-641-5111
吉祥寺クリニック	福岡県北九州市八幡西区椋枝 2-10-15	807-1115	内田 裕之	093-618-9255
愛の会さしもとクリニック	福岡県北九州市門司区大字吉志 407	800-0114	岸本 健一	093-483-1600
門司港腎クリニック	福岡県北九州市門司区東本町 2-1-6	801-0851	田中 秀欣	093-322-3551
日本海員救済会門司病院	福岡県北九州市門司区清滝 1-3-1	801-8550	柗山幸志郎	093-321-0984
戸畑けんわ病院	福岡県北九州市戸畑区新地 1-5-5	804-0082	浅見 勉	093-881-8181
親和会天神クリニック	福岡県北九州市戸畑区天神 1-9-7	804-0094	菅 朗	093-871-7871
(医)寿芳会芳野病院	福岡県北九州市若松区本町 2-15-6	808-0034	芳野 元	093-751-2606
久留米大学医学部泌尿器科	福岡県久留米市旭町 67	830-0011	松岡 啓	0942-35-3311
久留米大学病院腎センター	福岡県久留米市旭町 67	830-0011	奥田 誠也	0942-35-3311
久留米大学医学部腎臓内科	福岡県久留米市旭町 67	830-0011	奥田 誠也	0942-35-3311
社会保険久留米第一病院	福岡県久留米市櫛原町 21	830-0011	南 浩	0942-33-1211
今立内科クリニック	福岡県久留米市西町 178-1	830-0038	今立 俊一	0942-21-3331
吉武泌尿器科医院	福岡県久留米市野中町 866-16	830-0862	吉武 信行	0942-31-0011
松尾内科医院	福岡県久留米市国分町 1944-5	830-0863	松尾 治之	0942-22-0148
天神会古賀病院 21	福岡県久留米市宮の陣 3-3-8	839-0801	福成 健一	0942-38-3333